

# ちづ 智頭 議会 だより



町の花  
どうだんつじ

鳥取県智頭町議会

第157号

発行: 令和4年1月19日



芦津・虫井谷付近



現在

令和3年度12月定例会

- ☆ **補正予算を可決** ...P2
- ☆ **議会報告会・意見交換会** ...P3
- ☆ **行政評価と政策提言** ...P4~5
- ☆ **陳情と審査結果** ...P6
- ☆ **7人の議員が一般質問に登壇** ...P7~10
- ☆ **各常任委員会の報告** ...P11~13
- ☆ **議員派遣** ...P14~15
- ☆ **町民の声 (土師地区)** ...P16

## 智頭の思い出シリーズ46

### 昭和30年代 除雪作業

大陸から吹く季節風がもたらす、重い「山雪」は、強い杉を育む環境を生み出し、智頭町の林業を発展させた。現在、町内では施設も合わせ79路線で機械による除雪作業が行われている。

# 令和3年度 条例に基づく 議会報告会・意見交換会を開催!!

## ◆報告会・意見交換会のテーマ◆

- 議会の状況  
議会構成  
所管の事項と調査内容
- 議会の活動状況  
各常任委員会の活動状況  
議員の活動報告書
- 住民の方の意見・要望・質問

令和2年度議会報告会・意見交換会を開催しています。十分な新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで開催となります。

第一部では、資料に沿った議員による報告会。

第二部では、地域住民の方と議員との意見交換会を行っています。

**町内87箇所  
全集落を対象に開催**

新たな議会改革として



毛谷集落



穂見集落

令和3年度  
(2021年)

議会報告会資料



—鳥取県智頭町議会—

〒689-1402  
鳥取県八頭郡智頭町大字智頭2072番地1  
電話/FAX: 0858-75-3115  
ホームページ: gihai@tam.dti.ne.jp

報告会での資料

## 検討 改善した 内容

- 議員選出監査の継続
- 議員の当て職・公社等理事の廃止
- 常任委員会の活性化
- 長期欠席時の報酬削減
- 視察報告書の改善
- 議会慣例の適時見直し
- 議会広報広聴委員会の設置

継続審議中  
スケジュール(案)

	R3 12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
■ 議員報酬	令和4年12月議会に方向性の取りまとめ。 (令和2年度・3年度の議会報告会での町民の意見を参考にし、 討論します。)												
■ 議員定数	次期改選期1年前に方向性の取りまとめ。												
■ タブレット導入	令和4年11月までに方向性の取りまとめ。												

# 12月 定例会

## 18歳未満現金一括給付

12月定例会(12月8日から15日)で、令和3年度補正予算案や条例案など町長提出の12議案を審議し、原案どおり可決しました。

補正予算の主な内容は次のとおりです。

## 18歳未満10万円給付

議会の要望により、  
5万円とクーポン券の給付予定を  
現金一括での給付となりました。

対象 住民税非課税世帯の方

世帯ごとに  
**10万円**  
プッシュ型の給付を予定

2021年11月に発表された経済対策の1つ

住民税非課税世帯に  
対して  
臨時特別給付金  
10万円



新型コロナワクチンの  
3回目接種

## 条例の一部改正

- 智頭町過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正
- ① 新過疎法の制定による条例中引用する法律等の名称の改正。
- ② 対象業種に情報サービス業を追加。
- ③ 適用期間の延長及び経過処置による改正前既定の継続。

● 智頭町国民健康保険条例の一部改正

出産育児一時金の支給について、産科医療補償制度の掛け金の見直しにより、現行の40万4千円から40万8千円に引き上げる。

## 人事案件

● 人権擁護委員

令和3年12月31日で任期満了となる前橋隆廣氏の再任に同意した。

総務常任委員会【商工振興費】

事業番号 1165

総合評価	10 / 12	理由 本町の商工振興を目的とした店舗改修、新規創業など適正に支援が行われている事業である。
		附帯意見 町内で安定した雇用の場を確保するためには、行政の後押しは必要不可欠であり、新型コロナウイルス影響で経営難となっている企業に対する支援、企業育成の充実、商工会や町内業者との連携を深め町内で安定した雇用の場確保を求める。
		今後の方向性 今後も商工会と密接な連携を図り、新型コロナウイルスによって中小企業や飲食店が経営難に陥り廃業とならないような事業継続の支援や顕著になりつつある後継者対策が必要と考える。

今後の方向性：現状のまま継続

民生常任委員会【多面的機能支払交付金事業】

事業番号 2006

総合評価	10 / 12	理由 水路の補修や法面の草刈りを軽減し、農地保全活動を支援することで農地や農村環境の維持、耕作放棄地増を防ぐ事業としては有意義な事業と考える。
		附帯意見 事業規模が小さいため、予算規模、交付手続きの煩雑さなど、現状の集落組織力では利用が難しい状態である。事務を担うマンパワーの確保が課題となっている。
		今後の方向性 今後は、集落営農や法人組織を活用して、若手担い手にとっても魅力的な組織を広域化し、事務処理を担う体制づくりを検討されたい。

今後の方向性：見直し、改善のうえ継続

民生常任委員会【山と暮らしの人づくり事業】

事業番号 2085

総合評価	9 / 12	理由 山林から持続的に価値が創出でき、人材育成や事業の担い手をつくる大切な事業である。
		附帯意見 山林所有者から44haの登録を受けながら、活動が低位な点を改善し、林業を支える担い手の育成や確保を行い、山林を登録する側、活用する側、地域全体でそれぞれのメリットを発生するような仕組み作りを考えていく必要がある。
		今後の方向性 今後は、関係機関等にも積極的に関わりを持ってもらい、自伐型林家のみならず従来の施業者にも恩恵が生まれる組織づくりを検討されたい。

今後の方向性：見直し、改善のうえ継続

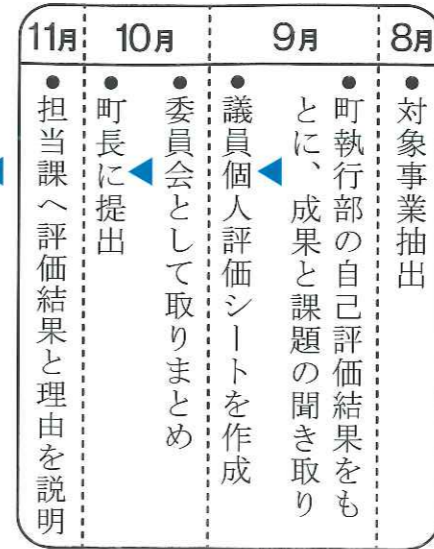
- 政策提言**
- 議会が町へ5項目を提言
- 令和4年度の予算編成に向けて、年度の事業・施策のさらなる充実、強化を図るよう提言しました。
- ① 災害・防災対策の充実
    - 指定避難所の見直しと、民間を活用した分散化
    - 避難所運営体制の充実
  - ② 商工労働対策
    - 地元企業や商店の事業継承・支援の推進
    - ウイズコロナ経済対策の充実
  - ③ 持続可能な農業振興の強化
    - 若手担い手に対する支援と体制づくりの強化
    - 農地保全対策支援の強化
  - ④ 智頭林業の再生に向けた独自政策の強化
    - 森林整備担い手育成対策事業の拡充
    - 架線集材技術継承支援事業の拡充
  - ⑤ 新たな共助交通システムの構築
- 総務と民生共通

行政評価を行いました

令和2年度の決算で実施された事業の中から町として重要と思われる4事業を抽出し、事業内容を評価しました。評価結果は次年度の事業へ反映させるため実施しているもので、今年度で7回目となります。各議員の評価をもとに議会として集約し、行政評価結果を町へ提出しました。

行政評価の流れ

(下表参照)



- 総務常任委員会
1. 防災費
  2. 商工振興費
- 民生常任委員会
1. 多面的機能支払交付金
  2. 山と暮らしの人づくり事業



智頭町議会による事務事業評価シート(常任委員会)

実物サンプルです。

評価対象事業名	防災費	事業番号	1181
所管常任委員会	総務常任委員会		

事業評価の集計

評価項目	評価	評価の目安 4:適切 3:概ね適切 2:改善の余地がある 1:廃止を含めた見直しが必要											
		理由(5段階で評価: 評価議員数を表示) 5:大変良好 4:良好 3:どちらとも言えない 2:不良 1:大変不良											
妥当性	4	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価				
		評価	4	4	4	4	4	4	5	4	3	2	1
		理由	社会情勢からみて、行政で実施することが適切か						6				
		住民ニーズや総合計画に適合しているか						5	1				
		事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か						1	4	1			
有効性	3	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価計				
		評価	3	3	3	4	3	3	5	4	3	2	1
		理由	期待した効果は得られているか						1	5			
		事務事業の目標は達成できているか						1	4	1			
		総合計画の目的達成に貢献しているか						1	5				
効率性	3	議員	A	B	C	D	E	F	6議員の評価計				
		評価	3	3	3	4	4	4	5	4	3	2	1
		理由	コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か						1	4	1		
		提供するサービスの向上を考えたとき、実施方法は適切か						3	3				
		事業に投入された人員は適性か						1	5				

総合評価	10 / 12	理由 事業の性格上、行政の責務として実施は適切と認める。
		附帯意見 自然災害が近年多い中、一日でも早く指定避難所の環境整備を充実させ、町民の安全安心につなげるべきである。町民の命を守るためには、新型コロナウイルス感染対策、ハザードマップをふまえた住民と共に、避難経路・手順など周知出来る取り組みが必要である。
		今後の方向性 現状のまま継続としているが、新型コロナウイルス感染対策を考えた指定避難所の見直しや分散化に際しての連携を充実させること、高齢化が進む本町において、簡易ベッドの整備は急がれる。

今後の方向性：現状のまま継続

# 7人の議員が一般質問に臨みました

## ▼ 町政の課題を執行部に問う ▼

議員名 / 質問内容	議員名 / 質問内容
<b>河村仁志</b> 1. 第7次智頭町総合計画について	<b>仲井 莖</b> 1. 防災の観点からみた智頭町の山林について 2. 不登校児の学びの権利について 3. 本町の「おせっかい」のまちづくり宣言について
<b>大河原昭洋</b> 1. デジタル田園都市国家構想について 2. J-クレジットの取り組みについて	<b>宮本行雄</b> 1. 今後の「育みの郷」の構想について
<b>岡田光弘</b> 1. 空き家対策について 2. 地域通貨の導入運用と展望について	<b>谷口翔馬</b> 1. 除雪体制について 2. 森林セラピー事業について 3. 子育て支援について
<b>田中 賢</b> 1. 「智頭の山と暮らしの未来」について	※一般質問とは、議員が町政全般について、疑問に思うことを、町長や教育長などに問い質すことです。

### 一般質問

**問** 町民の安心な暮らし・活動を支えるための環境整備として地域公共交通は重大な施策、共助交通の導入を図りながら実証実験の取り組み・方向性など体制、運用はいつ頃なのか。

**答** 町長 今後も現状の持続可能な取り組みとして何が必要か。行政だけでなく、住民と一緒に考え、それぞれの地域で実現可能な形の継続を目ざしていきたい。

**問** 高齢化、人口減少が進む中、活動を広げる仲間づくり、各地区団体も加えた連携を含め今後どのような施策で進めて行くのか。

**答** 町長 今年度から新たな世代融合を生み出す循環型まちづくり推進事業に取り組んでいる外部人材活用による人材育成支援など進めている。

**問** 各地区のミニデイなど地域との関わりが一つの要因となり介護認定者数は増加もなく安定している。担い手の高齢化・人材不足の課題解決を図りながらどのように進めて行くのか。

**答** 町長 智頭町地域公共交通計画を策定、全ての人に寄り添える持続可能な交通体系の構築を図る。実証実験を行い、まだまだ改善する事は多い。来年度は、全町的な実証実験も再度行っていく。



河村 仁志

#### 第7次総合計画

住み続けられる町づくりの視点について問う  
町長／住民と一緒に考え地域で実現可能な形で継続を目ざす

# 陳情の審査結果

件名(要約)	提出者(要約)	審査結果
① 町道・下向線改良について	新田集落 区長 津田 英樹 他 住民一同	採 択
② 本町防火用水路の水の確保に関する陳情	上町町内会 会長 河上 雅彦 中町町内会 会長 西川 彰 下町町内会 会長 山本 倫夫	採 択
③ 中河原下道(通称)の町道編入・整備について	新見部落 区長 安原 健二	採 択
④ 農道橋梁「新見下橋(通称)」の町管理橋への編入・整備について	新見部落 区長 安原 健二	趣旨採択
⑤ 新見川及び波多川河川の改修に関する陳情	富沢財産区 議長 国岡 寛幸 富沢地区公民館 館長 本阪 公司 富沢地区振興協議会 会長 河村 勝敏	採 択
⑥ 県道6号線沿い河川側立木伐採に関する陳情	富沢財産区 議長 国岡 寛幸 富沢地区公民館 館長 本阪 公司 富沢地区振興協議会 会長 河村 勝敏	採 択
⑦ 西野部落内、砂防堰堤設置を求める陳情	西野部落 世話人 白岩 道雄	採 択
⑧ 大屋部落内治山に関する陳情	大屋部落 世話人 岸本 広夫	趣旨採択
⑨ 大屋部落防災行政無線屋外子局増設に関する陳情	大屋部落 世話人 岸本 広夫	採 択
⑩ 牛臥山土砂流出防止に関する陳情	上町町内会 会長 河上 雅彦 中町町内会 会長 西川 彰 下町町内会 会長 山本 倫夫	採 択

陳情書は定例会が始まる10日前までに提出ください。(土・日・祝日を除く)  
詳しくは、議会事務局にお問い合わせください。



陳情 受付

TEL: 75-3115

gikai@town.chizu.tottori.jp

次回の定例会は3月8日から開催する予定です。

陳情箇所は、所管の委員会が現地を見て、陳情者から説明を聞き、判断しています。



▲陳情④の現地確認(新見地内)

## あの陳情、その後どうなった？

○町道分谷線外1路線の舗装修繕工事  
(工事場所：智頭町大字口宇波地内)

令和元年12月 採 択

▶ 令和3年11月30日に完成!

修繕前の状況



修繕後の状況





大河原 昭洋

地方創生

デジタル技術による活性化策は町長／アナログとの融合で魅力化を図る



AI(人工知能)を活用した乗り合いタクシーの実証実験

政府はデジタル先進技術の普及を通じて、地方と都市の差を縮める目的で「デジタル田園都市国家構想」を進め、地方への新たな人の流れを創出するとしている。7年が経過した地方創生との違いをどのように認識しているのか。

町長 地方からデジタル化を進め、業務の効率化や最適化、利便性の向上を

図ることで地域の活性化を目ざすということであり、あくまでも基本は地方創生の一環であると感じている。

町長 昨年実施の国勢調査の確定値が公表された。本町では、5年前と比べマイナスイナス10・2%の減少率であり、人口減少の加速が明らかになった。今後の対策として、何が必要と考えているのか。

町長 デジタル化だけが地方創生を進める唯一無二とは考えていない。あくまでも人と人とのつながりであり、これからの町の活性化は、デジタル、アナログを融合させた方法こそが、魅力向上につながると考えている。



岡田 光弘

空き家対策

現状認識と対策の将来展望は町長／増加する空き家に対して適切に対応する

住民生活に多大な影響を及ぼす空き家について、町としてどのように取り組んでいくのか。

町長 町条例、空き家対策計画に基づき対応していくが、特に危険な「特定空き家」については、持ち主に解体撤去を促していく。

町長 空き家対策計画では予防、利活用、規制を規定しているが、町としての具体的な対策は、また総合計画へ盛り込めないか。



空き家を利活用した施設(中原地内)

町長 智頭町が導入している地域通貨「てご」の町民への普及とまちづくりに活用するための展望はどうか。

町長 本町の住民自治が「てご」を活用して進め10月より本格導入。今後、利用者・事業所も増やして健康ポイントなどの連携も図り使える範囲を増やして普及していく。



田中 賢

智頭ビジョン

智頭の山と暮らしのビジョン 町長／課題解決に向けて取り組む

智頭町の山と暮らしの未来ビジョンは、4つの柱を期間10年と決め、大別された「低コスト林業の推進」「智頭杉の需要拡大」「癒し、憩いの森林づくり」「木質バイオマスの取り組み」の各柱について、どのような政策や施策が行われ、どれくらいの効果があったか。

に生かすべきでないか。

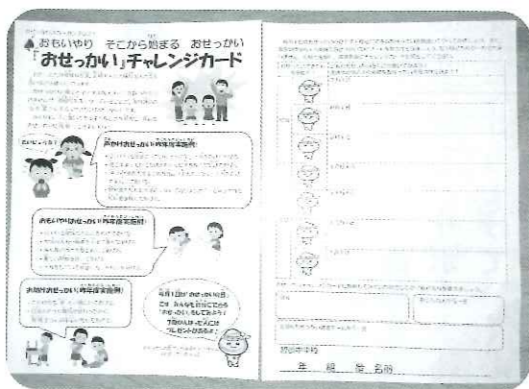
町長 山の荒廃ということについては、いろんな荒廃の在り方があると思う。基本的には、防災のための山づくりという事ではなく、山の手入れをきちんとし整備していけば防災に繋がっていくと思う。

町長 ビジョンに基づく取り組みは、全てが順調に進むとは思っていませんが、今後も課題に向けて取り組んでいく。

山林の荒廃が進んでいると思うが、国が喫緊の課題とする森林事業として設けられた「森林環境贈与税」の活用を優先的に森林整備



牛臥山のはだか地の状態



智頭中学校で配布されているチャレンジカード



仲井 莖

おせっかい

「おせっかい」チャレンジカードの効果は町長／いい意味での「おせっかい」が広がることを大いに期待する

あえて「おせっかい」という本来の意味を大きく変えてまで、子どもたちに推進していくことが必要なのか。そして、子どもたちに対して7回頑張った人にプレゼントをするということは適切なものか。とても、違和感を覚えている。そこで、生徒の反応とその効果はどうか。

町長 人と人とのつながりがある温かいまちとして、智頭町に愛着を持ってもらうことを目的に取り組んでいる。そもそも「おせっかいのまち」という「おせっかい」という言葉の意味が、大きく履き違えられたというようにない方をされているが、本質は違う。このような世の中であるからあえて「おせっかい」という言葉を使い、横のつながりをもっていたいだきたい、という大きな意味をもっていると思う。





宮本 行雄

**育みの郷構想**

**命が一番大切では**

町長／命を最優先に考えていきたい

**問** 育みの郷構想は7年前、地方創生事業としてスタートした。過去の一般質問で2人の議員が、産婦人科医の産婦人科医の状況と、今後の対応をどのように考えているのか。

**答** 町長 産婦人科医の確保については、当該事業者が主導で行い、先日ヒアリングをしたところ、常駐ではないが、協力していただける産科医は確保できていると聞き及んでいる。育みの郷構想は、本町の地方創生の一環として進めてきた。行政としての一定の役割は果たしてきたと思っっている。今後の運営についても、官民連携で、母子保健の充実と

いうことを願っている。



**問** 妊婦さんの思い、望み、心配なことは、生まれてくる赤ちゃんの命のことだと思ふ。理想や想いだけでは命は守れない、救えないと考える。言うまでもなく命が一番大切だと思うが、町長の考えは。

**答** 町長 私も命が一番だと思う。生まれてくる子ども命が全てだと思うので、命を最優先に考えていきたい。これは育みの郷であるうが何であろうが一緒で、基本的に、智頭町の行政サービス第一だと考えている。



谷口 翔馬

**除雪体制**

**高齢化が進む本町、今後の集落内除雪対策は**

町長／持続可能な除雪対策を構築する

**問** 豪雪地帯である本町では高齢化が進み、将来を見据えると集落内除雪体制が限界になり、今後、集落内除雪が課題になると思われるが、町長はどのように認識し、対策をどう考えているのか。

**答** 町長 高齢化や人口減少によって対応が困難となることが予測されるので、個人・地域・行政の役割を明確にし、それぞれが理解協力しながら、高齢化社会の除雪対応、サポート体制を共に作り上げていく必要がある。持続可能な除雪対策を構築することで、地域の絆が深まり、地域力の向上につなげたい。



除雪用ブルドーザー

**問** 町民の生命を守り、安全安心な生活を確保するために、集落ごとの状況把握が必要となるが、今後どのように状況把握をしていくのか。

**答** 町長 コロナがある程度終息したら、座談会がもつと活発にでき、情報を取得していきたい。そして、情報に対しての対応をできる限りやっていく。

総務常任委員会の報告

報告者：谷口翔馬委員長

副委員長：仲井 委員：西尾、宮本、大河原、谷口

11月16日

智頭町商工会との意見交換会

意見・要望など

業種によって影響度合いは異なるものの、昨年に引き続き経営状況では売上減少が認められ、今後の見通しに不安を抱えている事業者が多い状況である。

昨年度開催した商工会との意見交換の中で、智頭町独自の支援策が必要であるという意見もあったことから、議会側から町に要望としてあげ、実現した施策である「智頭町新型コロナウイルスに負けるな中小企業支援交付金」や「智頭町新型コロナウイルス対策中小企業支援金」は、町内事業者から早期の支援策を評価する声も多かった。

依然収束の見通しはたまたず、事業者を取り巻く環境は厳しい状況にある中で、今後の支援策の要望として4つがあげられた。

- ①売上減少と補填する支援策
  - ②町内のサービス業（飲食業・宿泊業）に対する支援策
  - ③町内事業所の利用を促進する支援策
  - ④コロナ禍における地域振興事業（イベント等）の実施支援
- 今後、担当課と協議・検討を行います。



意見交換会の様子

所感など

新型コロナウイルス影響を踏まえ、今後も継続的な支援策が必要であり、智頭町新型コロナウイルス対策中小企業支援金など、売上減少を補填する支援策や新型コロナウイルスの影響が最も大きい飲食業・宿泊業に対する独自支援策。これまでに3回実施された地域通貨「杉小判」の継続など、現在、国が検討を進めている経済対策の動向を注視しながら本町の支援策としての内容検討が急がれると感じた。また、智頭町商工会など密接な連携を図り、今後も定期的な意見交換を継続し、お互いが情報共有することは、町の活性化、発展に欠かせないことであると改めて感じた。

10月19日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

**Q** 共助交通の利用料金は。

**A** 自宅前で乗れる。持続性を高めようと思えば、ある程度の負担は必要であり、住民の興味関心もあるので、説明できる料金体制を考えている。

11月16日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

**Q** 全戸に告知端末の設置完了予定は。

**A** 遅くとも年度内には設置完了予定。

12月10日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

**Q** 来年因美線が、全線開通90年となる節目のイベントの企画を考えてみる価値はあると思うが。

**A** 観光の視点において活動して行くことは大事だと認識している。因美線の現状については、沿線自治体とも今後、意見交換を行い検討していく。

**10月12日** 月例委員会  
所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

**主な質疑**  
Q 5Gを搭載したコネクティッドカーと第8期智頭町高齢者福祉計画・介護保険事業計画概要版が繋がっているか。

A 企画課と一緒にあって、コネクティッドカーで介護予防のデータ集積を行って利用する予定。

**11月10日** 月例委員会  
所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

**山村再生課**

・林業人材×異業種人材でニュービジネスの創出を目指す成果報告・審査会で、「マウンテンバイカーと森林組合の森林活用事業」が最優秀賞に選ばれた。「マウンテンバイカーが山林にお金を落とす仕組みを作る」というアイデア。サブスクリプション方式（月額3980円）で初年度は会員数1000人、森林組合提携数10箇所を目標とするもの。

・他に智頭町関連事業として「未使用材の定期購入で楽しい木工ライフを手軽に」は「未利用材を付加価値のある原材料として供給する仕組みを作る」というアイデア。（木工愛好家と材料供給者などをつなぐ新会社を設立し、売上の一部を「山の保全支援費」として智頭町に寄付するもの。

**主な質疑**  
Q マウンテンバイカーの人口10万人に驚いている。静かに歩きたい人、スポーツとして走りたい人があり、混在して問題となった。棲み分けはどうするか。  
A 山主にも迷惑をかけない。新しいロードも視野に入れるが、法律の範囲があり、今ある道を活用しながらと考えている。

※1コネクティッドカー  
インターネットや高速大容量通信(5G)を搭載し内部武装した自動車。  
※2サブスクリプション  
一定期間に一定料金(利用料)で提供すること。  
※3マウンテンバイカー  
悪路を走り、山道を登り降りに適したスポーツ自転車の愛好家。

**12月13日** 月例委員会  
所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

**主な質疑**  
Q コロナワクチン接種証明は無料か有料か。  
A 無料です。

Q コロナの病床確保で5床分の収入があるが、いつまでも続いていく訳ではない。今後の病床の対策は。  
A コロナ病床確保は12月までは開けておくよう県から指示が出ている。コロナ後の検討をしている。

Q 智頭病院は、予約していれば、何もない状況で面会できるか。  
A 制限は2親等以内。1回の面接につき2名まで、健康チェックを行い確認の上で面会を許可、県外に出られた方についてはオンライン面会を行ってもらう。

議会だより156号に関する  
**議会広報モニターからの  
ご意見を紹介**

全体の構成(見やすさ・記事量)は、『よい』が11名、『普通』7名でした。

**編集改善に関する意見**  
●表紙について  
・智頭農林高校の写真を見て高校の今後について町民が考えるきっかけになると思いました。

**12ページについて**  
・智頭農林高校の存続条件の厳しい中、現在県教委が中心となり、学校、町の関係者による魅力推進プロジェクトチームで将来ビジョンの作成を目ざしており…。

魅力推進プロジェクトチームとは、今どのような状況なのでしょう。

今視察に行ったり、不定期に会議を行っている段階です。

**15ページについて**  
・(自分ゴト化)意味が分かりません。

現在の町の取り組みの認知度調査や、将来像を行政と町民が、お互いに理解し合い、一体化となり自分のこととして考えることです。

**町政や議会活動全般に関する意見**  
●高齢化が進む中、訪問診療の拡大はとも大切だと感じている。時代や社会状況に合った医療が求められており、それが持続可能な病院の経営改善にもつながるのではないかと考えます。

●子どもの学び場について、今は子どもたちが選択出来る時代へと移りつつあると思う。それには責任を伴うが、社会的に自立する事を目ざすためにも個々に合った学びの場と対応を期待しています。

●議員さんのまちなのコイン、やってみたとか「特定健診を受けてみた」など何か一つテーマをあげて議員さんの声もぜひ取り上げてください。

**A I 乗り合いタクシー実証実験中**



**A I 乗り合いタクシー実証実験  
ドライバーを体験して**  
11月16日から12月6日までの間、山形・山郷地区でIP告知端末を活用したA I 乗り合いタクシー実証実験のドライバーとして参画しました。  
実験では乗車定員を上回る人数の予約が入ったり、駅前などの広いエリアでは予約者が分からないなど、多くの課題、問題点が見えてきました。今後の本格導入を見据え、利用者の利便性がさらに向上するよう検証し、改善の必要を感じました。

IP電話による予約  
通話料金は無料です。

# 同和問題調査特別委員会の報告

■報告者：大河原昭洋委員長  
副委員長：宮本 委員：全議員

『部落問題講演会』  
身近な差別・  
人権問題を学ぶ



部落問題講演会（総合センター 大集会室）

■研修日 令和3年12月9日（木）  
■場所 智頭町総合センター  
■演題 「人権教育の原点」  
■講師 福田 和博 氏  
（鳥取県立鳥取工業高校教諭）  
■参加者 全議員  
■概要  
同和教育や人権教育などの原点は識字にあり、文字を知ることや読み書きができることが心の豊かさにつながる。他にも、教え子が受けた結婚差別に合った体験談などを分かりやすくお話しいただきました。

## 東部町議会議長会議員研修会

■研修日 令和3年10月14日（木）  
■場所 各町Web（オンライン会議）  
■参加者 全議員  
■概要  
（八頭町、岩美町、若桜町、智頭町）による意見交換での研修  
若桜町は、公共交通「地域コミュニティタクシー」の在り方を報告。  
町民にとって利用しやすい仕組み作りを説明し、理解を得たうえで協力体制が重要と思われました。

コロナ禍の影響により、各町を結んだオンラインでの意見交換会を開催しました。  
本町議会を含め八頭町、岩美町の3町が「議会改革」の取り組みについて発表。  
各町でも「議会改革は終わりのない活動だ」という認識を持ち、問題点は町民と共に考え、議員の職責、活動量を示し理解していただくことの重要性を改めて感じました。



オンライン研修の様子

## 森林セラピーを体験して

■研修日 令和3年11月12日（金）  
■場所 芦津セラピーロード  
■参加者 全議員  
■所感  
全国60ヶ所以上の森が認定されており、智頭町の森もそのひとつ。  
豊かな自然を活かした観光と町おこしである。  
また、地域住民の健康増進に役立つ交流の場として2011年に始まりました。  
多くの認定をクリアして、人々を癒したこのスポットも、持続可能な付加価値が必要だと感じました。



芦津セラピーロード

## 鳥取県町村議会広報研修会

■研修日 令和3年10月27日（水）  
■場所 湯梨浜町「国民宿舎 水明荘」  
■演題 「議会広報紙の編集及び表現ポイント」  
■講師 長岡 光弘 氏  
（グラフィックデザイナー）  
■参加者 西尾・仲井議員  
■概要  
①議会の担う役割の広報紙  
②情報の構成を考えた紙面  
③情報を伝える企画編集  
④情報の分かりやすい表現  
住民と議会との意思の疎通を図り、相互信頼を培うため、重要な役割を果たしている、議会広報紙の一層の内容充実及び編集技術の向上のための研修会。



第154号議会だより

「智頭議会だより」が、鳥取県内では良い編集がされている事例として、広報研修会で取り上げていただきました。

## 鳥取県町村議会議員研修会



長内講師の講演

見から、政策課題を設定し政策立案を目的とする流れを学習。  
議会・議員活動における政策立案は住民との対話と傾聴の結果であることを認識した講義内容でした。

■研修② 「コロナ後の市町村の対応と町村議会・議員の役割」  
■講師 産業評論家

■研修日 令和3年11月22日（月）  
■場所 三朝総合文化ホール  
■参加者 全議員  
■研修① 「議事機関としての質疑・質問、政策立案できる議会をみざして」  
■講師 早稲田大学マニフェスト研究所 長内 紳悟 氏  
再確認すると共に、問題の発  
進藤 勇治 氏  
コロナ禍後の世界経済成長率・日本産業界の動向と、その時期に合った対応と役割が必要であると解説された。議会・議員はコロナ後の地域経済・地域医療・弱者支援など、地域の課題を知り、地域の声を代弁して行政に反映することの重要性を強く感じた内容でした。



# 皆様に支えていただき10年を迎えました

やまくち たかし  
山口 敬司さん(土師地区)

大阪から2010年に移住し10年が過ぎました。移住のきっかけは、様々な仕事を経験してきましたが、これから先の事を考えた時に、生きていくうえで欠かせない野菜を作っていきたくて、相談した方の縁で智頭町に来ました。その頃はまだ移住という言葉も馴染みがなく、便利な所からわざわざどうして来たの？と言われた事を思い出します。

野菜作りを通じて智頭町の色々な地域の方に顔を覚えて頂き本当に恵まれていると思います。野菜作りは全くの未経験からのスタートで、栽培方法が色々ある事も知らず実践していく中で今は、できるかぎり種から種が取れる固定種を使い、除草剤・化学肥料・化学農薬は使わずに野菜を

作っています。

大阪や東京など都心部から畑に足を運んで下さる方は、智頭町の環境の良さに皆さん驚かれます。その環境と栽培方法を活かしてもっと沢山の方に野菜を届けられるように頑張っていくと思っています。

現状は、10年間色々試行錯誤して来ましたが、なんとか食べていけるぐらいにはなりましたが、周りの方から百姓じゃ食えんとよく言われその言葉は年々身に沁みます。自然に触れな



山口さんご夫妻

がら思うようにいかない事ばかりですが、毎日こつこつ出来る事を積み重ねていく。自分で作った野菜を食べて、そして食べて喜んでくれる事を頑張っています。まだまだ自分の事で精一杯ですが、耕作放棄地の問題、新しく農地を求めてきた際に少しでも使いやすい状態に整える、その田畑の問題点など診断書のような物をつくるなど、農業に関わろうと思う人が一人でも増えるような努力ができたらいいのになと思います。農地を今後も維持して行くためにも、沢山の方が農業に関われるような準備が必要ではないかと思っています。出来れば新規で農業を始めの人が一人でも増えるような準備に取り組んでいただければと思います。

## 編集後記

12月定例議会でコロナ禍における子育て支援特別給付金含む議案を可決しました。

感染者の減少に伴い、コロナ規制緩和措置がとられ、少しずつ人の動きが活発になってきました。今後のオミクロン株の動きなど予断を許しません。

変わらぬ感染予防をお願い致します。

議会は広報広聴委員会より町民の皆様の声をお聴かせ頂き、町政に反映させるよう努め、更なる議会改革を進めてまいります。

新しい一年が町民の皆様におかれまして、よりよき一年となりますよう、衷心よりお祈り申し上げます。(波多)

編集 広報広聴常任委員会

委員長 西尾 寿樹

以下全議員

発行責任者 議長 谷口 雅人

## お詫びと訂正

記載内容に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

	誤		正
P 2	18歳 <u>未滿</u> 現金一括給付	→	18歳 <u>以下</u> 現金一括給付
	18歳 <u>未滿</u> 10万円給付	→	18歳 <u>以下</u> 10万円給付